
身勝手な楽しい？巻き込まれ人生

クー子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

身勝手な楽しい？巻き込まれ人生

【NZコード】

NZ0545Y

【作者名】

クー子

【あらすじ】

最近よくある巻き込まれ異世界物です。

プロローグ（前書き）

思いつきで、書いてみました。
いつまで続くか判りませんが、暇つぶしにでも
読んでみてください

プロローグ

「私、明日勇者になる！」

私の部屋に来てそう宣言したのは、友人だった。
来た時から、今日はやけに興奮していて
なんだかちょっと怖かった。

なんでも、神様とやらが夢の中であらわれて
明日勇者として召喚されるらしい。
だから、家族や友人など親しい人たちに今日中に
お別れしておく様に言われたらしい。

役目が終わつた後帰してもらえないのか聞いたの？
と聞くと、「無理だつて」とのこと。
私とは違い、友人知人の多い友人。
さつさとお別れして来い！と部屋から追い出した。

プロローグ（後書き）

まだ、友人＆主人公の名前が決まってません（汗）
早めに決めたいと思いまス。

1 (前書き)

読んでいただきありがとうございました。

朝、鳥の鳴き声がした。

私の住んでいるのは、都会のちょっと離れたところ
家賃が安いケド会社には近いといつぎつぎりの所で
(それでも1時間はかかるケド)
だから、こんなにたくさんの鳥の声なんて聞こえるはず無いー！

覚悟を決め立ちあがると回りが森だった。

キヨロキヨロ回りを見て、歩き始めた。
(やつぱり、森だ・・・。)

人が居た。

宙に浮いている人・・・つていつか少年しかも金髪美少年。

目があつたーー！

浮いたまま目の前に移動してきて
「おはよー」 と挨拶してきた。

「？」

取り合えず人は発見出来たので、
質問してみるとした。

「あの、貴方誰ですか？」
「・・・アレ？聞いてない？君のお友達から。」

「お友達？」

「うーん、聞いてないみたいだね。君のお友達
今日勇者としてこの国に召喚されることになってるんだけど。
「それは聞いてますが、ってこの国ーー？」

「つそ、この国。」

「なんで私までいるの！？」

「お友達がね、どうせだつたら君も一緒に良いって言いだしして。そのぐらいだつたらいいよ～ってOKして、けど、同じ所にやつちゃうと君も勇者騒動に巻き込まれるし。それはさすがに本人に確認しなきやマズイかな～なんて思つてとりあえず『』にしてみました」

してみました　って・・・

「つてことは、アンタ神様？」

「アンタつて・・・まあいいや、うん」

「で、本人に確認も無しにこんなとこに飛ばしてくれたわけ（怒）

「あれ？」

「ねえ、もちろん帰れるわよねえ～私関係無いもん！」
「すいません、無理です。」

「あ？あ」

「ひつ、『』ごめんなさい（泣）」

「で、如何してくれるので？」

「出来る限りの事をさせていただきます。」

「なに、当たり前の事いつているの」

「ホントにすいませんでした～～～。」

「あつ、ちなみに此方に来た時点で、勇者と貴方様は不老不死になつてますんで。」

「えつ何それ。」

「あんまり気にしないください。話すと30年ぐらいかかりますから（嘘）」

「まあいいか（なんかムカつくけど）」

「じゃ、『』希望があれば、伺います。」

うんとうりあえず、『』つて異世界なんだよね。

異世界てことは、トリップ

異世界トリップ物の小説を参考にすればいいのか。

ああ、役に立たないと思っていた知識が役に立つとは・・・

ありえない！

あつとそんなことより、
え～とまづは、・・・。

1 (後書き)

今回、セリフ多かった(笑)
ちょっと恥めて読みずらかったら御免なさい。

まだ、名前決まってませんでした。

2 (前書き)

いつも読んでいただきありがとうございました。
前回の続きです。

あれから、神様が色々してくれました。

まあ、とつぜんだよね。

と言つわけで、現在森の中にマイハウスがありそこでのんびりお茶しながら

卵温めます。

何が、どうしてこうなったの？

つてなると思いますが、

ぶつちやけないと、

まず神様、私住む所無いんですけど
と言つたら、作ってくださいました。

(庭に湖、畠付き、家に地下付きログハウス) 森の中
ついでに、この世界の事何にも知らないんでどうにかして?つてい
つたら

とりあえず文字の読み書きできるようにしてくれて
この世界の言語もしゃべれるようにしてくれました。

あとは、この世界つてやっぱ魔法使えたりするの?つてきいたら
つかえるよ つて言つので、だったら王道のチート系でしょ。
つて事でコロシクね~ つてチートにしてもらいました。
神様曰く、勇者より強い力モ(汗)と言つてましたが、
もちろん勇者一行に加わるなんて事しませんよ。
ちゃんと、釘をしきました(笑)。

後は、一人だとさびしいので誰でもいいので私の事を(事情)
を知っている人が身近にほしい、と言つたら、卵くれました。
コレ、人じやないよ?

そう聞いたら、温めて数時間後にかかるからそれまで頑張れ！
と言われた。

この世界のヒトは、卵から生まれるのか？

不思議に思つてゐると、そんなわけない！と突つ込みが。

しかも頭叩かなくても・・・（どうから出したそのハリセン）

何でも、生まれた後は私と一緒にいて判らない事をこの卵の子に聞くと

色々教えてくれるらしい。

しかも、私の事もちゃんと承知してくれている、おりいひせんだと
いつ。

うん、すいべ楽しみ

貰つた卵を抱きながら、じゃ家の説明を・・・

と言つて、家の説明を一通り受け

じゃあ、こんなんでいい？ゆるしてくれる？

といつので、じゃ、家の周りに私以外は入れないよ！（防犯対策）
結界はつて？

あと結界内は常に気温を一定に。

それから、結界内に入るのに鍵を4つつぶらに作ってくれる？

それでチャラ。（今のところは）

カッコ内が気になるけど・・・まあいいかつて、

そのあと神様は帰つて行きました（チャンチャン）

そして、冒頭に戻つて・・・

お茶をのんでいるわけです。

ああ、長かった。

2 (後書き)

なんか、突っ込みとかハリセンとかコメディぽくなつてきたので
タグに（コメディ）つけたしました

3 (複数形)

いつも読んでいただいてありがとうございます。

あれから5時間未だ卵は、何にも変化なし。

普段だつたら、そろそろ昼食を取り始めている時間。

そう言えども、数日の食糧はあるとか言ってたつけ・・・

朝も何も食べていなくてお腹も減つたし、何か食べよう。

さつき案内してもらつたキッチンのほうへ移動して
(その間卵は籠があつたので籠の中へいれておいた)

戸棚を見てみると、パンや卵、その他などホントに数日分?つて言
うぐらい

十分にあつた。

せっかくなので、簡単に卵をスクランブルエッグにして
お肉もあつたので薄切りで塩コショウ(事前に神様から調味料は一
応聞いておいた)
をして、焼いて

野菜と一緒にパンに挟んで食べた。

ちなみに、フライパンやお鍋など一通りそろつていた。

さすがに、ガスや電気までは通つていなくて

火は魔力で点けた。

(チート能力の一部で魔力膨大にあるから想像するだけで何でも使
えるよ

と言われ、指先にうそくの火を思い浮かべたらホントに点いてち
ょつとびっくりしたけど)

ちなみに、家は水道(庭の湖から水を引いている)付き これお

まけだよ B Y 神様

普通の家庭は、村で2~3個の井戸を共同で使用しているらしい

朝食を取り終ると、お茶を入れ直しま卵を抱え温め始めた。

・・・・・・・・・・・・

（数時間後）

腕の中から、ぴきつぴききつと小さな音が聞こえた
下を向くと卵に亀裂が！

（あれっ？ そんなに私力強く抱きしめてたっけ！？）
ちょっとだけパニックになりながらも、

卵は抱えたまま。

卵の亀裂の音はさつきよりも聞こえ、しかも一部欠け始めた。

（あれ？？ もしかして孵化し始めてる？）

とりあえず、籠の中に一端置いて様子を見ることに。
すると、数十分後・・・

前に飼っていた猫とそっくりの黒猫が・・・

「お久しぶりです。」

「へ？？」

今なんて？

「だから、お久しぶりです。おぼえてないですか？僕の事（泣）」

「えーと、君にそっくりの子だったら知ってるんだけどね？」

「え その子です僕」

「ナイナイ」

「あるある」

「ないない」

「あるある」

「ないないってホント、だつてその子捨て1か月でしつ死んじゃ
つたんだから」（泣）

「はい、あの時アリガトウございました。その時は、勝手に飛び出

して御免なさい。」

「えつ、なんで？？」

「だから、さつきから言つてるじゃないですか～あの時の僕たつて。

神様が融通利かてくれたみたいです。」

「じゃあ、ずっとといつしょ？」

「はい。しかも僕も貴方と一緒に不老不死らしいですから先に死ぬなんて事もないですよ。」

「よかつた～（泣）・・・でもこの世界の知識とか平氣？かなり頼りたいんだけど」

「卵の時に詰め込まれたので平氣です。」

「えっと、コレ言つたら怒るかもしれないけど、神様には人間でつてお願いしたんだけど・・・。」

すると、いきなりテーブルの上に飛び乗りそこから一回転一瞬で青年に・・・。

「これでOKですか？」

「はい、OKです。」

3（後書き）

やつと卵孵りました。
神様は、後ろめたいのか会話が楽しかったのか
結構主人公に甘めでした。

4（前書き）

早速お気に入り登録してくださった方ありがとうございます
ございました！！
こんなありきたりな話ですが暇つぶしにでも読んでいいください
ね

アレから。。。

そう言えば猫のときしか名前なかつたよね?
青年のときもその名前でいい?と聞くと
それはちょっと(・・・)とこのうでの
名前考えました。

それでは発表しまーーす!!

(黒猫)ちび(青年)クロー¹
はい!そのままです(笑)
判りやすく、黒猫 黒 クロー となりました。
ちなみに、(ちび)は以前つけた名前です。

名前も決まった所でコレからの事を話合おうじやありませんか!

まずは、近くの町の事をおしえてもらいました。
その前に、今いる国(日本)の事を聞いておいたほうがいいんじゃない?
いえ、そんなこと如何でもいいんです。
必要な時に聞けば!

と言つ事で、買い物や仕事で利用する町の事を聞きました。

名前:リズ

村々に囲まれた町で比較的大きな町
色々なお店が出ており買い物に便利
この森は、ちょっと離れた所にあり
町に行くには村の一つスミカ
とこう村を通らなくてはいけないらしい。

とりあえず、お金もないし畠も放置はもつたいないので
明日は2人で町へ行きギルドへ登録
そして畠にまく種や苗を買うためのお金を稼ぎ
と決めた。

ちなみにどうやったらお金稼げる?
仕事できる?とちびに聞いた所

ギルドへ登録すれば?と教えてくれギルドの存在を知った。
うん、異世界だねえ・・・。

・・・次の日・・・

朝食をとり、

そう言えど、町はちょっと遠いって言ってたよね。

なんとか、早めにつけないものか?

ちびに早速相談してみると、

んじや、早速行く?準備いい?

と言つので、とりあえず前もつて神様から
貰つておいたリュックをしようとしてOK

ちびについていくとドアの前。

コンナトコロになんの用?なんて思つていると
ドアを開け、イキナリ押し込み
ちびも飛び込んできた。

かちやり・・・。
締めちやつた。

今度は田の前にあるドアをちびがあけると、
道に出た。

「もう町だよ

早！！

後ろを見ると大きな木にドアがついていた。

周りを見ると人は通っているけど誰一人気づいていない・・・。

「結界だよ。これもあの家の特典の一つ、あのドアくぐると

ココに出れてしかも結界があるからまわりの人は気付かない！」

「すごい

「とりあえず行くよ」

そういうて青年姿になつたちび、もといクローハギルドへ
連れて行つてくれた。

4（後書き）

名前やつと決定！！しました（笑）
まだ、主人公の名前でできませんが（^_^;
たぶん次当たりで出てくるカナ？？

5（前書き）

いつも読んでいただけてありがとうございます。

3話の終わりのほうですが、
(テーブルの上に乗り)と書いたりねば、(テーブルに飛び乗り)
に訂正させていただきました。

ギルドは、冒険もの漫画なんかによく出てくるような建物で
中もそうだった。

ちなみに右半分は昼間は飯屋、夜は酒場になるそうだ。

私たちは、とりあえず登録だけでも済まそうと
受付カウンターにいたおねーさんに声をかけた。

「すいません、登録したいんですけど・・・」

「はい、登録は初めてですか？」

「はい、初めてです。」

「では、此方に必要事項をご記入ください」

・・・・・

記入が終わり、2枚の紙をおねーさんに渡すと、
「では、少しお待ちください。」と言われ待つことに。

紙には、

いざ仕事している途中で大けがを負つたり
死亡しても、ギルドでは、保証しませんよ
的な事が書いてあつたり、種族、名前、
その他戦闘の際に關しての質問がいくつかあつた。

私は
種族：人間
名前：ツバキ マツダ
クローカーは、
種族：獣人

名前：クロード・マツダ
と記入した。

手続きが終わり、カードをもらつた。
コレからはこれが、身分書代わりにもなるそうだ。
ちなみに失くすと一度登録を取り消し、登録し直さなければいけない
と言つちよつと面倒な仕組みだった。

簡単におねーさんに説明してもらい、とりあえず
ココまで来たから買い物でもと思つたけど
肝心の先立つものがなかつた（泣）

結局、クロードと話し

早速依頼を受けに受付へ

掲示板で、スミカ村からの依頼と言つのがあったので
その紙を取りおねーさんに渡した。

「お願いします。」

5（後書き）

ギルドでの手続きでした。

6 (複数形)

いつも読んでいただいてありがとうございます。

《ギルドと勇者一行について》

この世界では、一つの国単位で勇者召喚が行われる。

たまたまこの国で友人が勇者として召喚されたが国単位で召喚為、
勇者と言つのはほかにも
何人かいる。

また、勇者と魔王といつのがRPGでの基本だが、この世界では魔王なんて存在
は無く、その代わり魔獣や魔物といった類のものが存在するため
ギルドでは、主にその討伐の依頼をうけていた。
ただ、上には上がるもので時々めちゃくちゃ強い敵が出て来る
そーゆーときに勇者一行の出番なのだ。

じゃ、そのほかは勇者一行つて何しててるの?と言われば、

何となくわかつてもらえました?

クロ一の『ギルド講座1』でした。

6（後書き）

『ギルドと勇者一行について』とあります
が、大雑把な説明でした（＾＾；

ちなみに、『ギルド講座1』とあります
がたぶん2は無いと思います（笑）

7 (前書き)

いつも読んでいただきありがとうございました。

ギルドで仕事を受けた私たちは、スミカ村に移動している間クローが色々説明をしてくれた。

説明を聞きながら移動していると、村が見えてきた。町よりは規模が小さくてのどかな村で家一軒一軒が素朴な感じで可愛い。

ついてみると、

家畜などの鳴き声が聞こえたり

村の中心の広場などでは、子供たちが遊んでいたりと、ほのぼのとした風景だった。

私たちは、子供たちの中で
ちょっと大きな男の子に声をかけ
村長さんの所に案内してもらえるように頼んだ。

村長さんの元に着くと「ありがとうございます」とお礼を言つて男の子と別れ早速村長さんとくノックをすると「どうぞ」とちょっと気の抜けるような返事が聞こえたので

ドアを開け中へ入ると、中には白髪のおじいちゃんが座っていた。「初めてまして、ギルドから来ましたツバキです。ヨロシクお願いします。」

「同じく、クローです。ヨロシクお願いします。」
一礼をし挨拶すると、「ヨコの村長やつてるヤーノイジや。ヨロシク
で、やつそくだがの?」

村と森の間に出てくる魔物退治してほしーんじや。

この村は、森がすぐ近くにあるから

定期的に退治してもらわんと安心できないんでの。

退治後は、いちこむよ寄るのも大変だろうから直帰でかまわんから

そつぱつて、村長さんは具体的にどの辺に魔物が出没するかななど

教えてくれ「じゃ、大怪我には気おつけての」

と言つて、送り出してくれた。

8 (福井)

いつも、読んでいただきありがとうございました。

教えられた場所に行くと、
そこは森のすぐ田の前

「イキナリ戦闘だと怖いだろ？から敵さんが来るまで練習しよ！」
クローがそう提案してくれたので、私は練習する事にした。

まず、一度火をつけた事があるので
それを思い出し、もう少し火力を上げて放つてみた。

すると、森の木に火が点いてしまい慌ててパニクッていると
隣にいたクローが水を出して消してくれた。
(万能猫だな)今は猫じやないケド(笑)

「ありがと！」と言つて、
今度は水を出したり、近くにあつた岩を浮かしてみたりと、
他にもいろいろと試してみた。

ある程度、馴れて来たところで

その場で座り少し休憩することにした。

休んでいると森の中から
ガサガサと音が聞こえ
慌てて立ちあがって警戒している

まるでトロの真っ黒に尻尾を生やし
大きくしたような生物が団体でやってきた。

クローは「尻尾は持ち帰るからね。」といつて団体さんに突っ込んでいった。

私も、周りを見渡しあつゝ浮かせて遊んだ岩をもう一度浮かせ真つ ク スケの一匹に的を絞り思いつきり上から落とすと

元々弱いのかあつという間に尻尾を残し消えてしまった。その調子で、数は多かつたがクローと二人でなんとか全部かたずけると尻尾を回収

時々くろい尻尾に白い尻尾が混じつてたが
気にせず残らず回収し、村長さんが立ち寄らなくともいいと言っていたので、お言葉に甘え村を通りギルドに帰った。

8 (後書き)

ちなみにクローラーは敵が弱いと見てスグ分ったので
拳で退治してました

9 (前書き)

今日は、短いです。

ギルドに着くと、

「終わりました」と受付のおねーさんで報告

すると、「じゃ、退治してきた魔物の一部を出してね」と言われ
尻尾を渡すと、「今計算するからちょっと待つてね」と言わ
れ、

受付の近くで待つことに・・・

周りを見渡しながら待っていると

「ツバキさん、終わりましたよ

と呼ばれたので、受付に行くと

銅貨30枚

銀貨8枚

くれた。

どうやら、これが報酬らしい。

私たちは、おねーさんに近くの安くよい品が置いてある
お店の情報を聞いて早速、聞いたお店に向かった。

9 (後書き)

ちなみに、

銅貨 = 100円

銀貨 = 10000円

です。（大雑把ですが・・・。）

10 (前書き)

いつも、読んでいただきありがとうございました。

ギルドのおねーさんに教えられた店は3つの店

- ・武器や防具のお店
 - ・生活雑貨店
 - ・洋品店
- 教えられた所は。どのお店も隣あつていて家族経営していて
武器屋は父親、生活雑貨店は母親（趣味も兼ねている）
洋品店は娘夫婦が経営しているそうだ。

最初に、目的の種を買ったため生活雑貨店に入った。
すると、ちょっと狭いお店に色々な品物があり、奥に行くと恰幅の
良いおばさんが
「いらっしゃいませ～」と声をかけてくれた。

「すいません、野菜の種か苗が欲しいんですが・・・」
と言ひと、「ちょっとまってね～」
といつて、奥に引っ込んでしまった。

少し待つていると、「今の時期だつたらコレだね」といつて見せて
くれた

白菜の苗を持ってくれた。

「白菜ですか・・・」
「これ、パクサイだよ」

クロ一が名前を訂正してくれた。

小さい声で、

「この世界の野菜って微妙に名前が違うんだよね。
味とか見た目は一緒なのに・・・」と教えてくれた。

私は、

「あの結界内温度一定にしちゃつたけど冬野菜とか、育つの？」と

聞くと

「冬野菜と夏野菜いつべんには無理だけど、冬野菜育てたかつたら、
冬野菜だけとか

にすれば、気温を調節できるよくなつてるから平氣じやない？」
と言つ事なので、とりあえず、そのパクサイとその他の苗数種類購
入した。

他にも、肥料や桑、ジョウロなども購入

次に、洋品店へ

ココでは、私とクローラーの洋服を数着購入。

庶民的なお店で、古着がほとんど
中には、店主であるアリーさん（雑貨店の娘さん）が趣味で作った
服も
何着かあつた。

手作りなだけあってちょっと割高だったの
今回は、古着の中からシンプルなワンピースを2枚と
動きやすい衣類を上下2枚づつ。
それから、クローラーにも上下数枚づつ購入し、武器屋へ

武器屋では、クマみたいな大きなおじさんがいた。

「いらっしゃい！」

体もでかけりや声もでかい。

今回は、クローラーの武器を買いに来たので
ココでは、クローラーに任せることにした。
「すいません。武器が欲しいんですけど
「どんなんだい？」

「丈夫な剣で持ち運び便利なやつ

「それじゃ、こなんんどうだい？」

2～3本見せてもらつて、結局一番最初に見せてもらつた剣に決めたみたいだ。

チョット面白そつなので私も一本買ってみた。

クロードはヨーク城についている水晶から望めば剣が出てくる
私のは、ヨーク城ではなく指輪から出てくる剣

確かに持ち運び便利だよね（笑）

特にクローは猫に戻つても身につけてられるし

「これだけ買い物するとなすがにお金のへりも早い
(またどんどん、稼がないと)

そう思いながら、家へ帰つて行つた。

10 (後書き)

今回は、ショッピングでした。

買い物は楽しいですよね

今回は、書いても楽しかった～（^_^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0545y/>

身勝手な楽しい？巻き込まれ人生

2011年11月8日07時08分発行